

## 宮本 昇先生を偲ぶ

高石 光一（亜細亜大学経営学部）

日本応用心理学会名誉会員である宮本昇先生が、2023年10月12日にご逝去されました。享年97歳でした。

宮本昇先生は、その温かなお人柄とジョークで周囲を和ませる一方、産業や社会における人間性の回復に研究と実践の両面から常に取り組まれておりました。

私が宮本先生と初めてお会いしたのは、40年以上も前です。私は大学卒業後渡米し、そこで産業心理と出会い、日本の大学で学者になることを夢見て帰国したもの、学者になる途は見いだせず、労働科学研究所（現公益財団法人大原記念労働科学研究所）の西岡昭所長に相談し、ご紹介いただいたのが宮本昇先生でした。

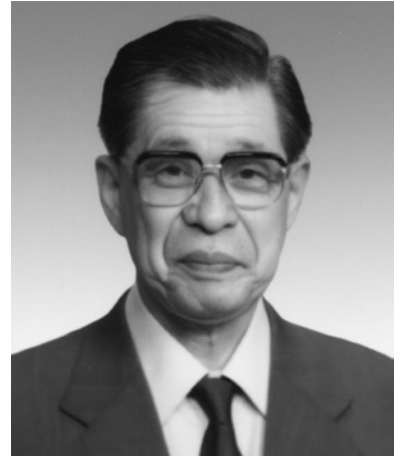
まだ日本で産業組織心理が今ほど注目されていなかった当時、宮本昇先生から、そのご著書である「産業における人間の問題 産業心理学序論」をいただき、理論だけでなく実践的な学問としての可能性を強く感じ、自分もこの道を歩もうと決意したことを懐かしく思います。応用心理学会に入会後、毎年、の年次大会では宮本昇先生やお嬢様である直美様（当時、応心会員）にも、笑顔でご懇意にいただき、心強く感じました。その後、産業・組織心理学会が創設され、私は応心よりも産組心に参加することが多くなり、応心は疎遠になってしまいました。しかし、宮本昇先生のように、現実の人間行動を注視する姿勢と人間観をもった学者でありたく思っていました。

以下、本稿では、宮本先生を偲び、お嬢様である宮本直美様から公私にわたるお話を伺いましたので、宮本昇先生の人間として、学者として、そして教育者としての足跡をご紹介します。

先生は、1925年生まれ、大安の日の出に生まれたので昇と命名されました。ご専門は、産業心理・部下指導・人事管理を中心に、生涯にわたるご研究の柱は、自己啓発・相互啓発・生きがいの心理、気と間の心理と自己実現、人事管理でした。人事院、人事管理協会（現公務人材開発協会）、日本産業訓練協会、リクルート、旧労働科学研究所、産労総合研究所等を中心に、国・地方・企業の研修も積極的に行っていました。

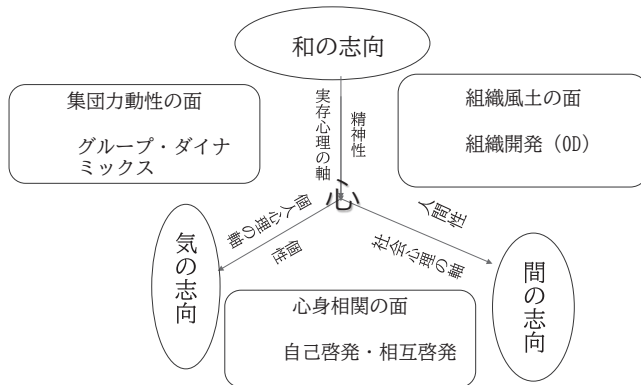
宮本先生は、豊島区にあった時習小学校を卒業（2003年に大塚台小と統合し現在は豊島区立朋有小学校）後、旧制巣鴨中学に進学されました。医師になる道を希望していたのですが結核を患い、それを断念せざるを得ませんでした。徴兵検査にも落ち、結核療養中に東京高等師範学校（現・筑波大学）の臨時教員養成所数学科に合格。数学および社会科の教員免許を取得後、東京教育大学東京高等師範学校研究科に進学。山田栄先生の下で教育学を修め教授法を深めると共に、バスタロッチ（スイスの教育家）の労作教育に関心を寄せました。さらに心理学研究科に進み、桂廣介先生のご指導の下で、一般心理学・青年心理学の基礎を収めました。

教員としてのスタートは西南学院・明治学院の高等学校でした。数学教員として、数学の苦手な生徒に、駄洒落を工夫しながらの独自の教授法で名物先生として教鞭をとっていましたが、その後、縁あって高崎経済大学で教育原理・教育心理学を、さらに高千穂商科大学（現高千穂大学）にて、心理学講義及び学生相談や学生指導等に当たり、学園の理事として大学運営に参画し、その功績が認められると、退職後の平成8年に、



宮本 昇 先生

# 宮本昇の人間学



名誉教授の称号を授与されました。

先生がご自身の人間学として作成していたモデルを直美様からご提供いただきました(上図)。先生の著作物の構想のテーマにもなっていたようです。

グループ・ダイナミクス、組織開発、自己・相互啓発が和・気・間の3つの志向性の関係の上に成立しているようです。宮本先生の長年のご研究に基づく心理学体系です。

## 【主なご著書】

産業における人間の問題 産業心理学序説 1977年 八重岳書房  
 生きがいの心理 1985年 ぎょうせい  
 新生きがいの心理 1988年 ぎょうせい  
 人と組織のイノベーション 1996年 同友館

## 【社会的な主たる役職等】

高崎経済大学教授  
 高千穂商科大学教授 同付属図書館長 学校法人高千穂学園理事・評議員  
 社団法人日本人事管理協会理事  
 日本応用心理学会 常任運営委員・名誉会員  
 産業・組織心理学会理事  
 人間問題研究所 主宰

## 【表彰】

税務大学校・東京税関・横浜税関・東京消防学校・郵政大学校等から表彰状他

最後に、晩年の宮本先生は、盛んに短歌調に想いを綴っていました。直美様から、愛妻家でもあった先生らしい短歌をご紹介します。

シルバー労働者が増え、老々介助が増えてきたことで

○ 年の瀬や 老々介助の ショッピング～

- 新緑の 風に息つぐ 八十路かな

ダイヤモンド婚式を迎え

- 五月雨や 添うて相傘 六十年
- 夫婦して 七転び八起 達磨の日

奥様の一周忌を迎え

- 北風や 帰ってくれたか ユキノシタ  
(奥様が長年大切にしていたヒマラヤユキノシタの開花に気づいて)
- 無に徹し 生きられるだけ 生きるだけ  
(宮本先生が亡き奥様から学んだ生き方だそうです)

そして、ご家族への遺言には、「沢庵禅師の辞世の句「夢」に習い、この世の夢についてはお礼を伝え、簡単に葬った後は、直ちに、日常生活に戻って下さい、ありがとう。お元気で！」とあったそうです。宮本昇先生の本学会へのご貢献に心から感謝を申し上げるとともに、哀悼の意を表します。合掌